

神奈川県における
子どもの心の診療拠点病院
機構推進事業

平成21年度の取り組み状況／今後の事業計画
実施上の問題点／今後の課題

神奈川県立こども医療センター
児童思春期精神科/臨床心理室（事務局）

<平成21年度活動内容>

- 1) 子どもの心の診療支援・連携事業
（地域へのアウトリーチや関連機関との連携会議の開催）
- 2) 子どもの心の診療関係者研修事業
- 3) 普及啓発活動

＜平成21年度活動内容＞

1) 子どもの心の診療支援・連携事業①

1. 多機関・多職種連携会議

横浜市4児童相談所合同の連絡会	2	KCMC	約30	情報交換・虐待症例の親権問題
多機関・多職種連携会議	1	県立総合療育相談センター	28	ケース検討会議
第1回福祉・医療連絡会	1	KCMC	44	精神医学講義・病棟見学・情報交換
第1回教育・医療連絡会	1	KCMC	50	精神医学講義・病棟見学・情報交換
司法・福祉連絡会	1	横浜少年鑑別所	38	ケース検討会議

＜平成21年度活動内容＞

1) 子どもの心の診療支援・連携事業②

2. 事例ごとの関係者会議（平成21年4月～22年1月） 通院あるいは入院中の患者の情報交換・方針決定のための会議

KCMCで開催	141
地域に出向いて会議に参加	19
合計	160

<平成21年度活動内容>

1) 子どもの心の診療支援・連携事業③

3. 児童福祉施設コンサルテーション事業

情緒障害児短期治療施設 (いずみ学園)	2	KCMC/ いずみ学園	44	ケース検討会議 情報交換
児童養護施設 (5カ所)	5	各養護施設	11~37	ケース検討会議 情報交換

<平成21年度活動内容>

1) 子どもの心の診療支援・連携事業④

4. 学校コンサルテーション事業

県中央児童相談所	1	藤沢市立大清水 小学校	33	ケース検討 (4例)
県中央児童相談所	1	茅ヶ崎市立緑が丘 小学校	33	ケース検討 (5例)
葉山町南郷中学校	1	葉山町南郷中学校	23	ケース検討 (4例)

＜平成21年度活動内容＞

2) 心の診療関係者研修事業

第1回精神医学セミナー (H.21.8.15) 子どもの心の問題についての基礎講座 ～小児科診療との連携を考える～ (小児精神科概論・身体化障害・摂食障害)	65	県内小児科医師 対象
第2回精神医学セミナー (H.22.3.6) 「学校精神保健を考える」 ～医療と心理の立場から～	120	教育・福祉専門職 対象
第1回連携のためのセミナー (H.22.3.16) 「児童福祉施設における諸問題」 ～育つということ・育てるということ～ 児童福祉施設施設長講演 * 児童養護施設長 * 情緒障害児短期治療施設長	48	児童精神科医療 関係者対象

＜平成21年度活動内容＞

3) 普及啓発事業

公開講座 (椎名篤子氏の講演) (H.21.11.14) 「子どもの虐待」 ～ジャーナリストとしての出会いと歩み～ (こども医療センター公開講座との共催)	159	一般市民 対象
拠点病院関連のホームページ随時更新		

＜平成22年度事業計画＞

1) 子どもの心の診療支援・連携事業

多機関・多職種連携会議／事例ごとの関係者会議は今年度同様に実施予定。ただし、処遇困難事例の連携会議開催は随時。

- i. 児童福祉施設コンサルテーション事業の中で、平成22年度は、児童養護施設への訪問コンサルテーションに重点を置く。実際には県内の養護施設の中から要請があった施設への訪問チームを派遣（児童精神科医、心理士、PSW）
- ii. 学校コンサルテーションについては検討中（どのくらい要請に応じ切れるかが問題）
- iii. 葉山町子ども支援事業への協力要請へのスタッフ派遣（児童精神科医・心理士・コーディネーター）
- iv. 施設見学を兼ねた情報提供の連絡会を対象を広げて継続

2) 子どもの心の診療関係者研修事業

小児科医対象・専門職対象

3) 普及啓発活動

公開講座を開催予定

＜本事業の実績と思われたこと＞雑感

1. 本事業にどのくらい関連しているかは判断困難だが小児科医向けのセミナー開催により相互連絡や診療依頼が増加した（特に摂食障害の相談、診療依頼）
2. 地域関係機関との相互交流の増加から児童養護施設へのコンサルテーションを通して児童精神科医療の必要度の実態を把握することができた。
3. 病院外でのコンサルテーションや関係機関への出張に対する拠点病院実施機関の理解が得やすくなった。

＜本事業の実施上の問題点／今後の課題①＞

1) 地域により本事業に求められる内容は質的に違う

・本事業の内容をより具体的にすることの困難性
大雑把なガイドラインの提示から各自治体や拠点病院がその地域で必要とされる事業を展開する形がよい

問題はその評価の方法

本事業展開前から、各地域で多かれ少なかれ本事業が求める拠点病院機能を工夫してきているのが実態で、新たに展開した事業のみで評価するのは如何か？

本事業の開始前と後での比較でよいのか

2) どこが主導で行うか

行政主導だと現場のニードとの齟齬が出たり、事業拡充の動機が曖昧になる可能性がでる（やらされ感）。一方、現場主導だと全体を俯瞰したグローバルな事業展開になりにくかったり、他の事業との調整が難しい。

各自治体の拠点病院機能の充実度によって、求められるバランスが異なってくると思われる。

＜本事業の実施上の問題点／今後の課題②＞

3) 事業継続が見えないための難しさ

モデル事業ということで求める側も実施する側も継続の保証ができないことへの不安から見守りや見送りとなったケースあり

4) 本事業の実績を単年単位で評価することの困難性

この事業の結果が出てくるのもタイムラグがあり、その数値化も難しい

中間時期の結論として、神奈川県立の拠点病院として事業展開している立場からの意見としては、本事業は有効に機能していると考え